

平成 30 年度用

小学校社会科用

新編「新しい社会 5上」
移行期 指導計画作成資料

○この資料の内容は、今後、変更する可能性がありますので、ご了承ください。

東京書籍

2017.10

- 目標**
- 世界の主な大陸や海洋，主な国の名称と位置，我が国と近隣諸国の位置関係や領土を理解するとともに，それらに関心をもち，意欲的に調べようとする。
 - 世界における我が国の位置や領土から学習問題を見だし，地図や地球儀などの資料を活用して必要な情報を集めて読み取り，白地図や作品にまとめるとともに，世界の中の我が国の位置について，様々な表し方を考えて適切に表現する。
- 評価規準**
- 社会的事象への関心・意欲・態度**
 - ①世界の主な大陸や海洋と我が国の国土との位置関係などに関心をもち意欲的に調べている。
 - 社会的な思考・判断・表現**
 - ①世界の中の我が国の位置や近隣諸国との位置関係，領土などについてを考え，適切に表現している。
 - 観察・資料活用の技能**
 - ①地図や地球儀，その他の資料などを活用して，世界の国々や世界の中の我が国の位置や近隣諸国との位置関係，領土などについて必要な情報を集め，読み取っている。
 - ②世界の主な大陸や海洋，主な国々の位置，近隣諸国と我が国の位置関係について，調べた内容を白地図やノートにまとめることができる。
 - 社会的事象についての知識・理解**
 - ①世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，我が国の位置と領土を理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
調 べ る	<p>①②世界の大陸と海洋</p> <p>p. 4～5 p. 10～11</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界の大陸や海洋を地球儀の見方・使い方も学び、それを使って調べてみよう。</p> <p>(2時間)</p> </div>	<p>○地球儀の特徴や活用の仕方についてわかったことをもとにクイズを出し合う。</p> <p>《わかったこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海がみんなつながっている。 ・地図で見ると大西洋が途切れている。 ・地図は、大陸が一度に見えるけれど大きさのバランスが地球儀と違う。 ・赤道が緯度0度になる。 ・緯度・経度と方位は違う。 等 <p>《クイズ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京の東にある国はどこ？ ・赤道上にある国を五つ以上述べよ。 ・東京からロンドンまでの距離は？ 等 <p>○地球儀や地図帳を活用して、世界の大陸や海洋を調べ、p. 4～5の□□□□に書き入れ、気付いたことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六つの大陸があり、島もあり、海に囲まれている。 ・海は、場所によって呼び名が違うけれど全部つながっている。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界は、六つの大陸と様々な島々とそれらを囲む海からできている。</p> <p style="text-align: right;">①②</p> </div>	<p>◆初めに1/2時間を使って、p. 10～11を基に、地球儀の使い方を指導する。その際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度、経度による位置の読み取り ・自分の住む都道府県から見た、方位の捉え方 ・距離の測り方 ・地図と地球儀の違いなどについては、確実に理解できるように指導を工夫する。 	<p>☆＜関意態①＞</p> <p>世界の主な大陸や海洋と我が国の国土との位置関係などに関心を持ち意欲的に調べている。</p> <p>☆＜思判表①＞</p> <p>世界の中の我が国の位置について、主な大陸や海洋、方位や緯度、経度などで表す方法を考えて、クイズに表現している。</p>

<p>③世界の国々とわが国の位置 p. 6～7</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界の大陸や島には、どこにどんな国があるか、それぞれの国の国旗や様子とともに調べてみよう。 (1時間)</p> </div>	<p>○p. 6～7の地図をもとに、世界の国の場所や国旗、その国の様子、日本との位置関係などについて地図帳や地球儀で調べながら、線をつないだり、国名を空欄に書き入れたりする。 《作業1》 ・国名の入っている国は、線をつなぐ。 《作業2》 ・国名がないものは、地図帳や地球儀で国名を調べ書き込む。 《作業3》 ・自分が知っている国を一つ地図帳や地球儀を基に調べ、書き込む。</p> <p>○線で結んだり、書き込んだりした地図を基に、気付いたことや思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大陸だけでなく島にも国がある。 ・国旗は似ているものもあるが、それぞれ違って、その国の人々の歴史や願いも込められているものもある。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界の中の大陸や島には、たくさんの国々があり、それぞれに国旗がある。 ③</p> </div>	<p>◆p. 6 やってみようの指示に従って作業をさせる。写真にも着目させ、それぞれの国の風土や文化の特色にも興味をもたせる。</p> <p>◆国旗については、p. 6の「ことば」を基に指導し、そういう視点で改めて各国の国旗を見直す。</p> <p>◆その国が、日本と比べ大きい小さいか、日本がどれぐらいのところに、どの方位にあるかなどについてもできるだけ調べさせる。</p>	<p>☆<知理①> 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称や位置を理解している。</p> <p>☆<技能②> 地図や地球儀を活用して、世界の主な国々の名称や位置についての確に調べ、白地図などに記入している。</p>
<p>④日本の国土の広がり と国土 p. 8～9</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地球儀や地図帳で、日本の国土の広がりや領土、日本のまわりの国々について調べ、わかったことや気づいたことを話し合おう。 (1時間)</p> </div>	<p>○地球儀や地図帳で、日本の国の広がりや領土、日本のまわりの国々を調べ、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土は海洋に囲まれており、四つの大きな島と沖縄島や択捉島などの多くの島でできている。 ・日本の領土の西の端の与那国島が台湾の近くにあるように、日本は、海で近くのと国とへだたっている。 ・北方領土や竹島、尖閣諸島は、日本固有の領土である。 ・北方領土は、日本固有の領土であるが、ロシア連邦が不法に占拠している。 ・竹島は、日本固有の領土であるが、韓国が不法に占拠している。 ・尖閣諸島は、日本が有効に支配している固有の領土であり、領土問題は存在しない。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界の国々はそれぞれに領土をもち、日本は海で近くのと国の領土と接している。日本は、四つの主な島と多くの島でできている。 ④</p> </div>	<p>◆日本の国土は、海洋に囲まれ多数の島々からなることをおさえる。</p> <p>◆領土という「ことば」をしっかりとおさえたのち、日本には領土をめぐる問題があることに触れる。その際、日本の立場は、歴史的にも国際法上も正当であることをふまえて指導する。</p>	<p>☆<技能①> 我が国の領土や近隣諸国との位置関係を教科書や地図帳の資料を活用し、読み取って話し合っている。</p>

- 目標
- 国土の概要を理解するとともに、国土の地形の場所による違いや特色に関心をもち、意欲的に調べようとする。
 - 国土の特徴的な景観が場所によって違いがあることから学習問題を見だし、地図や地形図などの資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、白地図や作品にまとめるとともに、国土の地形の特色について、思考・判断したことを適切に表現する。
- 評価規準
- 社会的事象への関心・意欲・態度**
 - ①国土の地形の様子に関心をもち、国土の特色について意欲的に調べている。
 - ②国土の地形の特色を位置や高さ、広がり、土地利用の様子から具体的に考えようとしている。
 - 社会的な思考・判断・表現**
 - ①国土の地形の特色について調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
 - ②国土の地形の特色を様々な地形の様子や位置や高さ、広がりなどと関連づけて考え、適切に表現している。
 - 観察・資料活用の技能**
 - ①国土の地形の特色について、地図やその他の資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。
 - ②国土の地形の特色について調べた内容を、白地図などにまとめている。
 - 社会的事象についての知識・理解**
 - ①国土の地形の主な特色を理解している。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	<p>①空から国土をながめてみよう p. 12～13</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 高い空から日本を見て、日本の地形について考え、学習問題をつくりましょう。 (1時間) </div>	<p>○p. 12～13の写真を基に我が国の地形上の特色について気づいたことや考えたことなどを発表し、それをもとに学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まわりを海に囲まれている島国。 ・海岸線が入りくんでいる。 ・海岸線が世界で6番目に長い。オーストラリアやアメリカよりも長い。 ・山が多くて、低い土地の方が少ないみたいだ。 ・四つの大きな島とたくさんの小さな島できている。 ・山の上の方まで人が住んでいる土地もある。 ・空から見る様子には、場所によって違いがある。 ・国土の場所によってどんな特色があるのかな。 	<p>◆国土の位置や広がり、高さ、自然の様子などに加えて、山がちであることのおさえの中で、火山もあることに着目させておく。</p> <p>◆海岸線の長さが世界で6番目に長いことに着目させ、入りくんだ海岸線や島の数などつなげて理解できるように、資料①や資料③を有効に使う。</p> <p>◆できれば、日本全図をプロジェクターで拡大し（日本の地形の掛図でもよい）四島を北から順に見ていく。</p>	<p>☆<思判表①> 写真や資料から気づいたことや考えたことをもとに、国土の地形の特色について学習問題や、予想、学習計画を考え表現している。</p>
	<p>学習問題 国土の地形には、どのような特色があるのでしょうか。</p>			
調べる	<p>②国土のいろいろな地形 p. 14～15</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 山地や平地の特色や広がりはどうのようになっているのでしょうか。 (1時間) </div>	<p>○本文を読み、国土の山地や平地に関する特色を国土の景観の写真資料や資料②などつなげて確認し、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土が細長い。 ・国土の100分の73が山地。 ・平地は少なく、山が海の近くまで迫っていることが資料⑦を見るとよくわかる。 ・川がすごく急で短いということが、資料②のグラフや資料⑦の写真からわかる。 <p>○p. 15の資料⑥を基に様々な地形の種類とその特徴を読み取り、資料③で確認し、地図帳でさらに詳しく調べ、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山地や山脈とよばれる地形は、四つの島の主に中央にあるが、場所によっては海にぎりぎりまで迫っているようなところもあるようだ。 ・関東平野は広そうだが、そのほかの平野のなかには、海と山に挟まれているくらいに細長く見えるところもある。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 我が国の国土の4分の3は山地で、南北に背骨のように連なり、平地は少なく、外国に比べて川の流れも急である。② </div>	<p>◆資料③の日本の主な地形の図と写真資料、資料②の川の長さとかたむきなどのグラフつなげて理解するように促す。</p> <p>◆資料⑥で地形の種類、呼び方、その特色を理解させ、それを視点としてもう一度資料③を見つめさせ、それぞれの特徴的な地形が、国土のどのあたりにあるか見取らせる。</p> <p>◆それらを地図帳とともに確認させ、そこからわかったことを発表させる。</p>	<p>☆<技能①> 日本の国土は山がちな地形であり、川の流れは短くて急であることなどの特色を地図やその他の資料を活用して読み取っている。</p> <p>☆<関意態②> 国土の地形にはどんな特色があるか、位置や高さ、広がり、土地利用の様子から具体的に考えようとしている。</p>

調 べ る	<p>③日本の火山の広がり p. 16</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本の火山には、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)</p> </div>	<p>○日本の火山について知っていることや p. 16 の資料を見て気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北から南まで山地や山脈のところどころに火山がある。 ・富士山も火山だ。 ・東京都や九州には、火山のある島もある。 ・今も噴火している火山がたくさんある。 ・火山の地熱でできる温泉を観光に利用している。 ・火山の地熱を利用した発電所もつくられている。 ・噴火は怖いけれど、人間は、火山のエネルギーを自分たちの生活に利用する工夫をしてきた。 <p>○それぞれの火山を地図帳で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が住むまちから近いところもある。 ・国立公園の中にもあった。近くに温泉がある場所もある。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>我が国は、火山の多い国であり、国土の北から南のところどころに点在している。火山は観光や休養、発電などに利用されている。③-1</p> </div>	<p>◆ここでは、日本が火山の多い国であること、それが北から南まで点在していることに目を向けさせるとともに、人の生活とのかかわりについても考えるように促す。</p> <p>◆噴火がもたらす自然災害の怖さだけでなく、人々がそれを活かして生活を豊かにしようとしていることにも気付かせる。</p>	<p>☆<関意態①> 日本の火山の様子や広がりに関心をもち、意欲的に調べている。</p> <p>☆<知理①> 日本には火山が多く、温泉や発電などに活用されていることを理解している。</p>
ま と め る	<p>③白地図にまとめる p. 17</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国土の地形の特色について、まとめましょう。 (1/2 時間)</p> </div>	<p>○p. 17 の白地図を完成させ、p. 14, 15 の資料や地図帳と併せて、特徴的な地形とその場所などを当てるクイズを出し合う。</p> <p><クイズの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日高山脈に水源があつて十勝平野を流れている川は何？」→「十勝川です」 ・「琵琶湖から流れ出ている川は何川で、なんという平野を流れている？」→「淀川で、大阪平野を流れています」 ・「九州にある火山を二つ以上言いましょう」→「桜島、新燃岳、雲仙普賢岳」 <p>○国土の地形の特色についての学習を振り返り、感想と自分の考えを文章に表現する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>我が国の国土は、山がちで平野が少なく、海に囲まれた大小の島でできていて、火山も多い。③-2</p> </div>	<p>◆地形の名前を使うことを意識させながら、クイズの問題や答えを言わせる。座席の隣同士ぐらいの人数(2, 3名一組)で行う。</p> <p>◆調べたことを「ことば」も生かしてまとめさせる。</p>	<p>☆<思判表②> 国土の地形の特色を位置や高さ、広がり、土地利用の様子などと関連づけて考えている。</p> <p>☆<技能②> 国土の地形の特色について、白地図や文章にまとめている。</p>

- 目標
- 地形条件から見て特色のある地域の人々のくらしを，岐阜県海津市を例にして理解するとともに，自然環境と人々のくらしや産業とのかかわりを考えようとする。
 - 海津市の様子を概観し学習問題をつくり，低い土地の人々のくらしや産業の特色を各種の資料を活用して調べてまとめるとともに，自然環境と人々のくらしや産業のかかわりについて思考・判断したことを適切に表現する。

評価規準

○社会的事象への関心・意欲・態度

- ①海津市の地形条件に関心をもち，人々の生活や産業の様子について意欲的に調べている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①国土の地形条件から見て特色ある地域の人々の生活について海津市を事例に調べるための，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。
- ②海津市の地形条件と人々の生活や産業を相互に関連づけて，国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え，適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①地図やその他の資料を活用して，地形条件から見て特色ある海津市の人々のくらしや産業について必要な情報を集め，読み取っている。
- ②海津市の地形条件を生かした人々の生活や産業の工夫について調べたことを，ノートにまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①国土の地形条件から見て特色ある海津市の人々の生活を理解している。
- ②海津市の人々のくらしや産業の様子を例に，国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①堤防に囲まれた土地 p. 18～19 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 海津市の土地の様子や、人々の生活について考え、学習問題をつくりましょう。(1時間) </div>	○海津市の土地の様子について、写真の読み取りや海拔 0m以下の土地を色塗りする活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理し学習問題をつくる。 ・海津市は三つの大きな川に挟まれた平らな土地である。 ・堤防に囲まれているし、川の水面よりも低い土地が多いけれど、水害はないのだろうか。 ・田畑が多いようだ。水は得られやすそうなので作物をつくるのに生かせるのでは。	◆ 0mの地域が多く、川が土地より高いところを流れていることから、川が増水し堤防が切れたらどうなるか予想させる。 ◆堤防という「ことば」をおさえる。 ◆水害を防ぐための人々の工夫に関心をもたせ調べる活動につなげる。	☆<思判表①> 色塗りした白地図も含め、複数の資料から考えたことをもとに調べたいことや疑問に思ったことを整理し、海津市について調べるための学習問題をつくり表現している。
			学習問題 堤防に囲まれた海津市に住む人々のくらしや産業には、どのようにふうがあるのでしょうか。	
調べる	②学習の進め方 p. 20～21 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。(1時間) </div>	○教科書の学習の進め方を参考に、社会科の学習の進め方を確かめ、特色のある地形の土地の人々のくらしについての学習計画を立てる。 ・個々の調べたいことや疑問を基に学習問題をつくる。 ・学習問題について解決を予想する。 ・学習問題を解決するために調べることを、調べる順番を考える。 ・学習計画に基づいて教科書や教科書以外の資料などで調べる。 ・調べたことや考えたことをまとめる。 ・必要に応じて「いかす」段階を設け、学習に広がりをもたせる。	◆本単元の学習を見通して、学習計画を立てるなかで、社会科の学習の進め方についても実践的に学ばせる。	☆<思判表①> 学習問題の解決のために学習に見通しをもち、学習計画を考え表現している。

調 べ る	<p>③水とたたかってきた人々 p. 22~23</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>輪中に住む人々は、くらしを水害からどのように守ってきたのでしょうか。 (1時間)</p> </div>	<p>○輪中の人々が、昔からどのように治水を進め、水害を防ぐ工夫をしてきたのか調べ、わかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪中に住む人々は、昔から堤防を築いたり、入り組んだ川の流れを整理したりするなど治水に取り組んできた。 ・輪中に住む人々は、家を建てる位置を工夫したり、水屋を立てたりするなどして水害に備えていた。 ・排水機場を計画的に整備し水害の被害を減らした。 ・市と市民が協力して、水害の防止に努力している。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>輪中に住む人々は、高い堤防を築き家のつくりを工夫し、水防のための組織をつくるなど、水害からくらしを守るために様々な努力や工夫をしてきた。③</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ p. 22 の資料④と p. 19 の資料④を比べて感じたこと、考えたことを発表させる。 ◆ 治水の歴史を江戸時代からの大きな治水工事を中心に整理した年表を作成し、児童に配り、p. 22 の資料③と合わせて読み取らせ、水害が減った理由を話し合わせる。 	<p>☆＜関意態①＞ 海津市の地形条件に関心を持ち、治水の歴史や水害からくらしを守る工夫について意欲的に調べている。</p> <p>☆＜技能①＞ 地図やグラフなどの資料を活用し、輪中の人々が治水など水害を防ぐ努力をして低地の自然環境に適応したくらしをしていることを読み取っている。</p>
	<p>④豊かな水を生した農業 p. 24~25</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>輪中の人々は、豊かな水をどのように農業に生かしているのでしょうか。 (1時間)</p> </div>	<p>○輪中の人々が、豊かな水をどのように利用し、生活に生かしているのか資料をもとに調べてわかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪中の人々は昔から豊かな水を生かして米づくりを進めてきた。 ・最近では土地の水はけがよくなった。 ・道路も整備され、農業の機械化が進み、米づくり以外の農業も盛んに行われるようになった。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>輪中では昔から農業を行っていたが、道路や揚水機場、パイプラインなどの整備により、豊かな水を生かした大規模な農業が可能になった。④</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 海拔の低い土地の抱える課題を克服して、生活に生かせるように改善してきた人々の知恵や努力に着目させる。 	<p>☆＜知理②＞ 海津市の人々が自然条件に合わせ、くらしや産業の工夫をしていることを、土地の改良と農業の機械化、大規模化、人々の生活などつなげて理解している。</p>

	<p>⑤水を生かした生活 p. 26</p> <p>海津市の人々は、豊かな水をどのように生活に生かしているのでしょうか。 (1/2 時間)</p>	<p>○現在の海津市の人々が水辺の豊かな自然をさらに工夫して利用していることについて、資料を基に調べわかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海津市の人々は、河川敷の自然を利用してレクリエーションやスポーツを楽しむようになった。 ・豊かな水やそれにかかわる観光施設を充実させ、観光客も増えた。 <p>海津市の人々は、市民のレクリエーションや観光などに広い土地や豊かな自然を生かしている。⑤-1</p>	<p>◆海津市では、豊かな自然を生かして市の人々の生活に潤いをもたせたり、名物料理の開発や観光施設を充実させることを通して観光客を増やしたりしていることについても新たに着目させる。</p>	<p>☆＜知理①＞ 海津市の人々が現在行っている、豊かな水を生かした新たな取り組みについて理解している。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>⑤ノートにまとめる p. 27</p> <p>海津市の人々のくらしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめましょう。 (1/2 時間)</p>	<p>○海津市の人々のくらしや産業の様子の移り変わりや工夫について、わかったこと、考えたことをノートにまとめ話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海津市の人々は、今も昔も豊かな水や低地の自然条件を生活や産業に生かしてきた。 <p>地形条件から見て特色ある地域には、地形の特色に合わせたくらしや産業の工夫がある。⑤-2</p>	<p>◆調べたことをこれまで学んだ「ことば」を使ってまとめるとともに、低地の人々のくらしや産業における工夫について自分の考えを表現させる。</p>	<p>☆＜思判表②＞ 海津市の地形の特色とくらしと産業を関連づけて考え、豊かな水を生かした農業や観光が低地の特色に合わせた工夫であることを考え文章などに表現している。</p> <p>☆＜技能②＞ 海津市の人々の、地形条件を生かしたくらしや産業の工夫について調べたことを、ノートにまとめている。</p>

- 目標**
- 地形条件から見て特色のある地域の人々の暮らしを八ヶ岳高原の川上村，南牧村を例にして理解するとともに，地形条件と人々の暮らしや産業とのかかわりを考えようとする。
 - 川上村・南牧村の様子を概観し学習問題を見だし，高い土地の人々の暮らしや産業の特色を各種の資料を活用して調べてまとめるとともに，地形条件と人々の暮らしや産業とのかかわりについて思考・判断したことを適切に表現する。
- 評価規準**
- 社会的事象への関心・意欲・態度**
 - ①川上村・南牧村の地形条件に関心をもち，人々の生活や産業の様子について意欲的に調べようとしている。
 - ②川上村・南牧村の地形条件と人々の生活や産業とのかかわりを具体的に考えようとしている。
 - 社会的な思考・判断・表現**
 - ①川上村・南牧村についての資料からわかったことや疑問に思ったことをもとに，調べるための学習問題，予想や学習計画を考え表現している。
 - ②川上村・南牧村の地形条件と人々の生活や産業を関連づけて，自然環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え，スケジュール表に表現している。
 - 観察・資料活用の技能**
 - ①川上村・南牧村の開拓や酪農の様子について，写真や年表などを活用して必要な情報を集め，読み取っている。
 - ②川上村・南牧村の地形条件を生かした人々の生活や産業について調べたことを，スケジュール表にまとめている。
 - 社会的事象についての知識・理解**
 - ①川上村・南牧村の地形条件を生かした高原野菜づくりには様々な工夫があることから，自然条件が生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。
 - ②川上村・南牧村の人々が，高原の自然を観光やレジャーに生かしたりするなど，自然条件を生かした生活や産業の工夫をしていることを理解している。

※本教材は選択教材のため、第二時は「低い土地の暮らし」内 p.20-21「学習の進め方」を指導する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①八ヶ岳のすそ野 p. 28～29 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 川上村・南牧村の土地の様子や人々の生活について考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間) </div>	○川上村・南牧村の土地の様子について、八ヶ岳のすそ野の写真や土地の傾斜や土地利用、平均気温のグラフを読み取る活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理し学習問題をつくる。 ・1000メートル以上の高い土地で、少し坂になっているようだ。 ・森を切り開いて畑が整えられている。 ・畑では、レタスやキャベツや白菜をつくっている。 ・牧場もある。 ・野菜や牛乳の生産額が大きい。 ・もともとやせた土地を、どうやって農業のさかんな土地にしていっただのか。	◆標高が高い土地であること、比較的平らな土地が広がっていること、夏でも涼しい気温であることを概観させる。 ◆p. 15 資料⑥を使い、高原という地形について確認する。 ◆切り開いた土地であること、野菜の生産額、牛乳の生産額の高さに着目させ、「どのようにして」という問題意識につなげる。	☆<思判表①> 川上村・南牧村についての資料からわかったことや疑問に思ったことをもとに、調べるための学習問題、予想や学習計画を考え表現している。 ☆<関意態①> 川上村・南牧村の地形条件に関心をもち、人々の生活や産業の様子について意欲的に調べようとしている。
		学習問題 高い土地に住む人々の暮らしや産業には、どのようにふうがあるのでしょうか。	◆高原野菜生産、酪農、観光の視点で追究していくようにする。	

調 べ る	<p>③あれ地を耕し広い畑に p. 30~31</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人々は、どのようにして八ヶ岳のすそ野を今のような土地に変えていったのでしょうか。 (1時間)</p> </div>	<p>○p. 30~31の写真にp. 28の写真を合わせて八ヶ岳のすそ野が人の手によって切り開かれたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森と畑の境目がはっきりしている。 ・年表とつなげると50年ぐらいで野菜の産地になるほど、農業に適した土地になったことがわかる。 ・木の切り株を掘り返すのも機械もなくて大変そうだ。 <p>○荒れていた土地を野菜づくりや酪農などに適した土地に変えていったことを、写真や「JA長野八ヶ岳の福田さんの話」などから読み取り、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々は、土地や気候に合う野菜を繰り返し試しながら、見つけ出す努力をしてきた。 ・川上村では、台湾に野菜を輸出する取り組みもしている。 ・栄養のある土づくりに必要な堆肥を得るために牛が役に立った。 ・酪農にも適した気候だし、広い土地で牛ものびのびしているようだ。 ・乳牛の牛舎を見ると何十頭もいる。牛は生き物だから、健康管理も大変だ。 ・餌やりや乳しぼりは、毎日やらなければならないから大変だと思う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>川上村・南牧村に住む人たちは、荒れている土地を人が住め、野菜作りや酪農ができる土地に変えていった。③</p> </div>	<p>◆開拓の様子絵とすそ野の牧草地の写真、レタス畑の写真などを比較し、それがどのぐらいの歳月で実現できたのか資料から読み取らせる。</p> <p>◆酪農に関しては、牛の生態にあった気候だったことと、堆肥を生かした耕作地の土づくりとの関係で野菜づくりにも重要な役割を果たしていることをおさえる。酪農そのものにも着目させておき、第4時の観光資源、社会貢献としての役割も果たしていることにつなげていく。</p> <p>◆酪農の一日の仕事、牛の生態や飼育に関する資料を用意して、特に牛乳生産については、安全・衛生に気を付けているということもおさえたい。</p>	<p>☆<技能①> 川上村・南牧村の開拓や酪農の様子について、写真や年表などを活用して必要な情報を集め、読み取っている。</p>
調 べ る	<p>④夏に新鮮で安全な高原野菜をとどける p. 32~33</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>高原の野菜づくりには、どのようにふうがあるのでしょうか。 (1時間)</p> </div>	<p>○川上村の野菜づくりについて、資料をもとに調べてわかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の東京市場でのレタスの量は、長野県が一番で、そのための工夫がある。 ・畑にかけるシートには、日光をよく吸収し、病害虫や乾燥などから野菜の根を守るなどの働きがある。 ・箱づめは手作業、収穫の時期には夜中から作業の準備をしている。 ・その年の気候などを考えて、まく種の種類を変えている。 ・新鮮な野菜をその日に食べてもらうような様々な工夫をしている。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>川上村・南牧村では、夏のすずしい気候を利用して様々な工夫をしながら高原野菜をたくさんつくり、全国でも有数の産地になっている。④</p> </div>	<p>◆資料⑧の資料を基に夏の東京都の市場では長野県産のレタスがほとんど占めているということに着目させ、それが高原のすずしい気候を利用していること、その時期に出荷するため様々な工夫をしていることをおさえる。</p> <p>◆特に、収穫の時期に合わせた月ごとの栽培の工夫、商品を大切に意識、厳しい検査をし、更に新鮮なまま消費者に届けようとする生産者の思いなどに触れさせたい。</p>	<p>☆<知理①> 川上村・南牧村の地形条件を生かした高原野菜づくりには様々な工夫があることから、自然条件が生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。</p> <p>☆<関意態②> 川上村・南牧村の地形条件と人々の生活や産業とのかかわりを具体的に考えようとしている。</p>

	<p>⑤自然のめぐみを生かす p. 34</p> <p>野菜づくり以外に、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)</p>	<p>○南牧村の自然を生かした取り組みについて学んだことを新たにわかったこととして整理し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高原の広い土地を利用した電波観測所がある。 ・アイスキャンドルコンテストのように冬にも観光客を呼ぶ工夫をしている。 ・作業体験や酪農について学ぶことができる牧場が増えてきた。 <p>川上村・南牧村の人々は、新しい農業の形を常に考え、夏のすずしさや美しい自然の恵みを生かした観光にも力を入れている。⑤-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆川上村と南牧村の収穫のシステムは違うところもあるので、時間があれば比較させたい。 ◆広い土地や気候の条件を生かした観光などの新しい取り組みに着目させる。 ◆産業を理解してもらうために、作業体験や酪農家の話を聞く活動などを通して、酪農の特色を、直接学ぶことができる牧場が増えていることをおさえる。 	<p>☆<知理②></p> <p>川上村・南牧村の人々が、高原の自然を観光やレジャーに生かしたりするなど、自然条件を生かしたくらしや産業の工夫をしていることを理解している。</p>
<p>まとめる</p>	<p>⑤スケジュール表をつくらう p. 35</p> <p>高い土地の地形を生かした人々の生活のくふうをまとめましょう。 (1/2 時間)</p>	<p>○川上村と南牧村の地形を生かした生活や産業の様子が伝えられる観光の「一日まんきつプラン」をつくり、プランを基にガイドになって説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が案内したい場所を選び、スケジュール表をつくる。 ・その場所で、伝えたいその土地の人の生活や産業の工夫をピックアップし、案内台本をつくる。 <p>地形条件から見て特色ある地域には、地形の特色に合わせたくらしや産業のくふうがある。⑤-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆調べたことをこれまで学んだ「ことば」を生かしてまとめる。 ◆川上村・南牧村の人々の生活や産業の工夫を紹介するプランに関して、なぜそこを選んだのか個々の考えを把握し評価に生かすようにしたい。 	<p>☆<思判表②></p> <p>川上村・南牧村の地形条件と人々の生活や産業を関連づけて、自然環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、スケジュール表に表現している。</p> <p>☆<技能②></p> <p>川上村・南牧村の地形条件を生かした人々の生活や産業について調べたことを、スケジュール表にまとめている。</p>

- 目標**
- 日本各地の気候の特色（四季の変化など）を理解するとともに、季節風が気候に及ぼす影響、気候と人々の暮らしのかかわりを考えようとする。
 - 日本各地の気候を概観して学習問題をつくり、各地の気候の特色と季節風の影響について各種の資料を活用して調べてまとめるとともに、人々の暮らしに及ぼす気候の影響について思考・判断したことを適切に表現することができる。

評価規準**○社会的事象への関心・意欲・態度**

- ①日本各地の気候の特色に関心をもつとともに、四季の変化や季節風について意欲的に調べようとしている。
- ②日本各地の気候の特色とそれぞれの地域の人々の暮らしとの関連などについて意欲的に調べようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①日本各地の気候の特色（四季の変化など）と人々の暮らしへの影響について調べるために、学習問題や予想、学習計画を考えて適切に表現している。
- ②日本の各地域の気候の特色（四季の変化など）と季節風の影響を関連づけて考えるとともに、気候と人々の暮らしが密接に関連していることを考え、適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①写真やビデオなどの資料を集めて比較することによって、日本の各地域の四季の変化を読み取るとともに、同じ季節でも日本各地の気候には大きな違いがあることを読み取っている。
- ②日本の地図と気温・降水量のグラフ（雨温図）などの資料を活用して、日本の各地域の気候の特色や季節風の影響などについて調べたことを白地図などにまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①梅雨（つゆ）、台風、季節風（雪）は、我が国の気候（季節）を特色づけている現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていることを理解している。
- ②我が国の気候には、四季の変化が見られ、南北に細長い国土、地形や季節風の影響などによる地域差が大きいことを理解している。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①日本の気候と四季の変化 p. 38～39 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 日本の気候と四季の変化について考え、学習問題をつくりましょう。 (1時間) </div>	○日本列島の地図を概観したところで、同じ場所（例えば福島県会津地方）の四季の変化を示す写真もしくはビデオを視聴する。それとともに、同じ季節（例えば3月）の日本各地の風景の写真もしくはビデオを視聴する。これらの活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理して学習問題をつくる。 ・日本には、四季の変化が見られる。 ・日本列島は南北に細長いため、同じ季節であっても（特に春や秋には）、雪や氷で覆われた冬のような気候の地域もあれば、桜の咲く春満開の気候（紅葉の美しい秋の気候）の地域もあれば、海水浴のできる夏のような季節の地域もある。 ○桜の咲き始める時期（あるいは、もみじの色づく時期）を示した日本列島の地図を見せて考えさせることで、学習問題につなげる。	◆同じ場所の各月の風景の違いを予想させる（春や秋に比べて、夏や冬の風景の差は小さめである）。 ◆気候という「ことば」をおさえる。 ◆梅雨（つゆ）、台風、雪、季節風が気候に与える影響に関心をもたせ調べる活動につなげる。	☆<技能①> 写真やビデオなどの資料を集めて比較することによって、日本の各地域の四季の変化を読み取るとともに、同じ季節でも日本各地の気候には大きな違いがあることを読み取っている。 ☆<思判表①> 日本各地の気候の特色（四季の変化など）と人々の暮らしへの影響について調べるために、学習問題や予想、学習計画を考えて適切に表現している。 ☆<関意態①> 日本各地の気候の特色に関心をもつとともに、四季の変化や季節風について意欲的に調べようとしている。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習問題 日本の気候には、どのような特色が見られるのでしょうか。 </div>			
調べる	②つゆ、台風、季節風の様子 p. 40～41 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 日本のつゆ、台風、季節風には、どのような特色があるのでしょうか。 (1時間) </div>	○日本の気候を特色づけている梅雨（つゆ）、台風、季節風（雪）について調べるグループをつくり、それぞれで調べ学習をした後で、発表し合う。 ・日本列島は6月から7月に梅雨（つゆ）の季節となり、集中豪雨に見舞われることもあるが、米づくりなどの農業には恵みの雨となっている。 ・夏から秋にかけて日本は台風に襲われることが多く、特に西南日本では大きな被害の出ることが多いが、夏に水不足になった地域には恵みの雨をもたらしている。 ・冬の日本列島では、季節風の影響により日本海側で多くの雪が降る。季節風が山をこえると、かわいた冷たい風になり、太平洋側に吹き下ろす。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 梅雨（つゆ）、台風、季節風（雪）は、我が国の気候（季節）を特色づけている現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしている。 ② </div>	◆それぞれの気候現象が人々の暮らしに及ぼしている影響にも留意するように指導する。 ◆季節風という「ことば」をおさえる。	☆<思判表②> 日本の各地域の気候の特色（四季の変化など）と季節風の影響を関連づけて考えるとともに、気候と人々の暮らしが密接に関連していることを考え、適切に表現している。 ☆<知理①> 梅雨（つゆ）、台風、季節風（雪）は、我が国の気候（季節）を特色づけている現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていることを理解している。
	③各地の気候の特色 p. 42～43	○日本の気候を6つに区分した地図と、各地の気温と降水量のグラフを見比べ	◆気温と降水量という用語をおさえる。	☆<技能②> 日本の地図と気

	<p>各地の気候には、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)</p>	<p>て考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋側は夏に降水量（雨）が多く、日本海側は冬に降水量（雪）が多い。 ・太平洋側と瀬戸内海の気温に大きな差はないが、瀬戸内海の降水量は太平洋側よりも少ない。 ・中央高地は夏と冬の気温差が大きい。一年を通じて降水量が少なめである。 ・北海道は冬が長く寒さがきびしい。降水量は他の地域より少なめである。 ・南西諸島は気温が高く、雨も多い。冬も温暖である。 <p>日本各地の気候の特色は、年間の気温と降水量などで区分される。また、その土地の地形や高さなどによって、雨の多い地域、雨の少ない地域、雪の多い地域のように気候は異なっている。</p> <p style="text-align: right;">③-1</p>	<p>◆二つの地域の気温と降水量を比べることによって、それぞれの地域の気候の特色を表現し合い、そうした話し合いによって考えを深める中で各地の気候の特色をまとめていきたい。</p>	<p>温・降水量のグラフ（雨温図）などの資料を活用して、日本の各地域の気候の特色や季節風の影響などについて調べたことをまとめることができる。</p> <p>☆〈知理②〉 我が国の気候には、四季の変化が見られ、南北に細長い国土、地形や季節風の影響などによる地域差が大きいことを理解している。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>③気候の特色のまとめ p. 43</p> <p>日本の気候の特色をまとめましょう。 (1/2 時間)</p>	<p>○日本の気候の特色について、わかったこと、考えたことをノートにまとめ、みんなで話し合う。</p> <p>我が国の気候には、四季の変化が見られ、南と北、地形や季節風などによる地域差が大きい。また、梅雨や台風等が、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしている。</p> <p style="text-align: right;">③-2</p>	<p>◆調べたことをこれまで学んだ「ことば」を使ってまとめるとともに、日本の気候の特色について自分の考えを表現させる。</p>	<p>☆〈関意態②〉 日本各地の気候の特色とそれぞれの地域の人々のくらしとの関連などについて意欲的に調べようとしている。</p>

- 目標**
- 気候条件から見て特色のある地域の人々のくらしを沖縄県を事例として理解するとともに、自然条件と人々のくらしや産業とのかかわりを考えようとする。
 - 沖縄県の人々の生活の様子から学習問題を見だし、あたたかい土地の人々のくらしや産業の特色について地図や各種資料を活用して調べてまとめるとともに、自然条件と人々のくらしや産業とのかかわりについて思考・判断したことを適切に表現している。
- 評価規準**
- 社会的事象への関心・意欲・態度**
 - ①沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に調べている。
 - ②沖縄県の気候条件と人々の生活や産業のかかわりについて考えようとしている。
 - 社会的な思考・判断・表現**
 - ①国土の気候条件から見て特色のある地域の人々の生活や産業の様子について沖縄県を事例地として調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
 - ②沖縄県の気候の特色と人々の生活や産業を相互に関連づけて、国土の気候が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、適切に表現している。
 - 観察・資料活用の技能**
 - ①地図や各種の資料を活用して、気候条件から見て特色ある沖縄県の人々の生活や産業について必要な情報を集め、読み取っている。
 - ②沖縄県の気候条件を生活や産業に生かしている人々の工夫や努力について調べたことをノートや作品にまとめている。
 - 社会的事象についての知識・理解**
 - ①国土の気候条件から見て特色ある沖縄県の人々の生活や産業を理解している。
 - ②沖縄県の人々の生活や産業の様子から、国土の気候条件が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	① 沖縄県の家や暮らしのくふう p. 44~45 沖縄県の家や暮らしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○地形や気候の特色について振り返る。 ・前小単元の復習 ・沖縄県の位置と気候の確認 ○沖縄県の様子について写真や気温と降水量のグラフの読み取りから、学習問題を導く。 ・那覇と東京のグラフの読み取り・比較 ・沖縄県の夏の暑さと台風を乗り切るための家の工夫と家のキャッチコピーを考える。 例：「暑さと台風を乗り切る」沖縄県の家 ・沖縄県の人々は他にどのような気候を乗り切る工夫をしているのだろうか。 学習問題 沖縄県の人々はあたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。	◆前小単元までに学んだことを振り返り、沖縄県那覇市の位置について地図帳等で確認させる。 ◆p.44 の那覇と東京のグラフを読み取る際、2つの地点を比較し、気候の違いをつかませる。	☆<思判表①> 沖縄県について調べたことをもとに、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ☆<関意態①> 沖縄県の気候の様子に関心をもち、人々の生活や産業の様子について意欲的に調べようとしている。
		○学習問題に対する予想と学習計画を考える。 ・地形を生かした海津市と同じように考えると、暑さをくらしや産業に生かしているのかもしれない。 ・那覇の冬の気温はとてもあたたかい。このことも何かに生かしているのだろうか。 ・学習問題を解決するために調べることと、調べる順番を考えて整理する。	(東京だけでなく、自分の住んでいる地域と比較できるとよい。) ◆暑さやあたたかさを生活に生かす人々の工夫に関心をもち今後の活動につなげる。	
調べる	② あたたかい気候に合ったさとうきびづくり p. 46~47 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのように産業に生かしているのでしょうか。(1時間)	○沖縄県の人々は、どのようにあたたかい気候を生かし、農業を行っているのか調べ、ノートにまとめる。 ・沖縄県の気温や湿度が高いという気候の特色に合うさとうきびを栽培していること。 ・「沖縄の宝」 ・さとうきびづくりと製糖工場。 ・さとうきび以外にも沖縄県の気候の特色に合う野菜や果物を栽培していること。 ・広い面積のアメリカの軍用地があること。 沖縄県では、一年を通して気温や湿度が高い気候に合った「沖縄の宝」と呼ばれるさとうきびを栽培している。また、ゴーヤーやパイナップルなど沖縄県の気候に合う特産物も栽培している。②	◆気温の高さについては言葉だけではなく、那覇のグラフに戻り、数値としてとらえさせる。 ◆さとうきび農家の大城さんの話からさとうきびづくりの努力や工夫について読み取る。 ◆沖縄県の料理の写真などを使い特産物を探す活動も考えられる。	☆<技能①> 沖縄県の農業の様子について、写真や表などから調べ、必要な情報を集め、読み取っている。 ☆<知理①> 気候の特色に合わせた工夫をしている沖縄県の農業の様子について理解している。
	③ あたたかい気候を生かしたきくづくりと観光 p. 48~49 冬でもあたたかい沖縄県の気候は、どのように産業に生かされているのでしょうか。(1時間)	○沖縄県の人々は、冬のあたたかさをどのように生活や産業に生かしているのか調べ、ノートにまとめる。 ・冬でもあたたかい気候を生かし、きくの促成栽培、抑制栽培をしていること。 ・一年を通してあたたかく、美しい自然を生かした観光産業が盛んであること。 ・美しい自然を守る取り組みも行っていること。 ・自然条件 (p. 56を参考) 沖縄県は、冬でもあたたかい気候を生かしたきくづくりや、一年を通してあたたかい気候や美しい自然を生かした観光産業も行い、自然条件を生かした工夫をしている。③	◆p. 48 きくづくり農家の親川さんの話と、p. 49 観光ガイドの人の話から、どのように気候の特色や自然を生活や産業に生かしているかという点に着目し、読み取らせる。 ◆気候や観光について克服しなければならない課題があることも考えさせる。	☆<関意態②> 沖縄県の気候条件とあたたかい土地の人々の生活や産業のかかわりを考えようとしている。 ☆<技能②> 沖縄県の一年間を通じてあたたかい気候を生活や産業に生かす人々の工夫や努力について調べたことをノートにまとめている。

	<p>④古くからの文化や自然を守る p. 50~51</p> <p>沖縄県の文化や自然は、どのようにして守られているのでしょうか。 (1/2 時間)</p>	<p>○沖縄県の人々の伝統的な文化や自然を保存・継承している人々について調べ、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県は、古くから日本の南の玄関口としての役割を果たし、アジアの国々との交流により豊かな文化を育ててきたこと。 ・沖縄県の人々は、ふるさとを愛する気持ちを忘れず、自分たちが受け継いできた文化や自然を大切に、次の世代に引き継ぐ努力をしていること。 <p>沖縄県の人々は、豊かな文化と自然を大切に、自分達の文化を大切に守り、次の世代に引き継ぐ努力をしている。 ④-1</p>	<p>◆沖縄県の文化や自然の様子については p. 50 の写真を用いて説明をする。</p> <p>◆調べた事をもとにして、沖縄県の人々の文化や自然を次の世代に引き継いでいこうとする人々の思いについて考えていくようにする。</p>	<p>☆<知理①> 沖縄県の人々が豊かな文化と美しい自然を大切に、それらを守り、引き継ぐ努力について理解している。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>④表にまとめる p. 51</p> <p>あたたかい気候を生かした沖縄県の人々のくらしや産業について表にまとめましょう。 (1/2 時間)</p>	<p>○沖縄県の人々のくらしや産業の様子について、今まで調べてきたことをもとに、学習問題についてノートにまとめ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらしの様子、観光の様子、農業の様子、文化の样子の4つの観点で調べたことを整理すること。 ・学習問題に対する結論（小単元のまとめ）は、「自然条件」をキーワードにしてまとめること。 <p>沖縄県の人々は、夏の暑さや台風からくらしを守る工夫をしたり、一年を通してあたたかい気候を生かす産業を工夫したりするなど、沖縄県の自然条件に合わせたくらしや産業の工夫をしている。 ④-2</p>	<p>◆p. 51 の表は学習問題の結論（まとめ）を導く際、調べたことを整理するため活用する。</p> <p>◆ことば「自然条件」を使ってまとめ、あたたかい地域の人々の工夫について自分の考えを表現させる。</p>	<p>☆<思判表②> 沖縄県の気候の特色と人々の生活や産業を相互に関連づけて、沖縄県の気候条件が生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、ノートに表現している。</p> <p>☆<知理②> 沖縄県の人々の生活や産業の様子から、国土の自然条件が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。</p>

- 目標**
- 気候条件から見て特色のある地域の人々の暮らしを北海道十勝地方を事例として理解するとともに、自然条件と人々の暮らしや産業とのかかわりを考えようとする。
 - 北海道十勝地方の人々の生活の様子から学習問題を見だし、寒い土地の人々の暮らしや産業の特色について地図や各種資料を活用して調べてまとめるとともに、自然条件と人々の暮らしや産業とのかかわりについて思考・判断したことを適切に表現している。
- 評価規準**
- 社会的事象への関心・意欲・態度**
 - ①十勝地方の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に調べている。
 - ②十勝地方の気候条件と人々の生活や産業のかかわりについて考えようとしている。
 - 社会的な思考・判断・表現**
 - ①国土の気候条件から見て特色のある地域の人々の生活や産業の様子について十勝地方を事例地として調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
 - ②十勝地方の気候の特色と人々の生活や産業を相互に関連づけて、国土の気候が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、適切に表現している。
 - 観察・資料活用の技能**
 - ①地図や各種の資料を活用して、気候条件から見て特色ある十勝地方の人々の生活や産業について必要な情報を集め、読み取っている。
 - ②十勝地方の気候条件を生活や産業に生かしている人々の工夫や努力について調べたことをノートや作品にまとめている。
 - 社会的事象についての知識・理解**
 - ①国土の気候条件から見て特色ある十勝地方の人々の生活や産業を理解している。
 - ②十勝地方の人々の生活や産業の様子から、国土の気候条件が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①十勝地方の家や暮らしのくふう p. 52～53 十勝平野の家や暮らしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○地形や気候の特色について振り返る。 ・前小単元の復習 ・北海道の位置と気候の確認 ○北海道十勝地方の様子について写真や気温と降水量のグラフの読み取りから、学習問題を導く。 ・帯広と東京のグラフの読み取り ・十勝地方の厳しい寒さを乗り切るための家の工夫と家のキャッチコピーを考える。 例：「寒さをのりきる暖かな」北海道の家 ・十勝地方の人々は他にどのような寒さを乗り切る工夫をしているのだろうか。 学習問題 十勝地方に住む人々は、きびしい寒さや気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。	◆前小単元までに学んだことを振り返り、北海道十勝地方の位置について地図帳等で確認させる。 ◆p. 52の帯広と東京のグラフを読み取る際、2つの地点を比較し、気候の違いをつかませる。	☆<思判表①> 十勝地方について調べたことをもとに、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ☆<関意態①> 十勝地方の気候の様子に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に調べようとしている。
		○学習問題に対する予想と学習計画を考える。 ・地形に特色のある地域（岐阜県海津市や長野県川上村・南牧村）と同じように考えると、寒さをくらしや産業に生かしているのかもしれない。 ・北海道はとても広い土地だ。この広い土地も何かに生かされているのかもしれない。 ・学習問題を解決するために調べることを、調べる順番を考えて整理する。	（東京だけでなく、自分の住んでいる地域と比較できるとよい。） ◆寒さを乗り切る人々の工夫に関心をもたせ今後の活動につなげる。	
調べる	②十勝地方の自然を生かした農業 p. 54～55 十勝地方の人々は、自然を生かしてどのような産業を行っているのでしょうか。 (1時間)	○十勝地方の人々は、どのように広い土地と気候を生かし、農業を行っているのか調べ、ノートにまとめる。 ・教科書や地図帳を活用して十勝平野の広大な畑の様子について調べることを。 ・十勝平野の夏涼しい気候の特色を生かし、その気候に合う作物を栽培していること。 ・十勝平野では、気候の特色に合わせ、輪作を行い計画的に作物を栽培していること。 ・畑の規模が大きい十勝平野では、大型の農業機械を使い作業をしていること。 十勝地方の人々は、広い土地と夏涼しいという気候の特色を生かして、じゃがいもやスイートコーン、てんさいなどの作物を大型の農業機械を使って輪作し、計画的に作物を栽培している。②	◆p. 55の「まなび方コーナー」の写真の読み取りの視点を活用する。 ◆夏の涼しさについては言葉だけではなく、帯広のグラフに戻り、数値としてとらえさせる。 ◆輪作については、p. 54の輪作のやり方の絵と坂東さんの話を関連させて調べる。 ◆夏涼しいという気候の特色と広い土地ということに着目させ、農業の特色について考えさせる。	☆<技能①> 十勝地方の農業の様子について、写真や表などから調べ、必要な情報を集め、読み取っている。 ☆<知理①> 気候の特色に合わせた工夫をしている十勝地方の農業の様子について理解している。

まとめる	<p>③十勝地方の寒さを生かす取り組み p. 56~57</p> <p>寒い土地に住む人々は、寒さを生かす取り組みをどのように行っているのでしょうか。(1時間)</p>	<p>○十勝地方に住む人々は、冬の厳しい寒さをどのように生活や産業に生かしているのか調べ、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 冬の寒さをしばれフェスティバルやバルーンマンションなどに生かし、寒さを楽しみにしたり、観光客を増やしたりする取り組み。 p. 57小学校でのスケートなどの写真と自分たちの小学校と比較から、寒さを学校でも生かしていること。 自動車会社の試験場や南極の氷を掘り出すドリルの実験などの産業にも冬の寒さを生かしていること。 十勝地方の人々は、冬の寒さという気候条件をマイナスイメージとするのではなく、貴重な資源として活用していること。 <p>十勝地方の人々は、寒さを貴重な資源として、様々なイベントを行ったり産業に生かしたりして、自然条件を生かす工夫をしている。③</p>	<p>◆ p. 57 陸別町の浜田さんの手紙から冬の寒さを生活や産業に生かす工夫に着目させる。また、「寒さは貴重な資源」とはどのような意味であるか考える。</p> <p>◆気候条件の意味について確認し、本時のまとめを自然条件をキーワードとして表現させる。</p>	<p>☆〈関意態②〉</p> <p>十勝地方の気候条件と寒い土地の人々の生活や産業のかかわりを考えようとしている。</p> <p>☆〈技能②〉</p> <p>十勝地方の厳しい寒さを生活や産業に生かす人々の工夫や努力について調べたことをノートにまとめている。</p>
	<p>④守ってきた文化を受けつぐ p. 58~59</p> <p>十勝地方の人々は、どのような文化を伝えてきたのでしょうか。(1/2時間)</p>	<p>○アイヌの人々の伝統的な文化や文化を保存・継承している人々について調べ、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道で昔から生活していたのは、先住民であるアイヌ民族。 アイヌの人々は、北海道の豊かな自然のめぐみを生かした文化を生み出したこと。 アイヌの人々は、自分たちが受け継いできた文化を大切に、そのよさを多くの人に理解してもらおうことと、次の世代に引き継ぐ努力をしていること。 <p>アイヌの人々は、豊かな自然のめぐみを大切に文化を受け継ぎ、文化や豊かな自然を大切に、文化のよさを多くの人に理解してもらい次の世代に引き継ぐ努力をしている。④-1</p>	<p>◆アイヌの人々についての説明はことば「先住民」(p. 58)を用いて説明をする。</p> <p>◆調べた事をもとにして、アイヌの人々の伝統的な文化や次の世代に引き継いでいこうとするアイヌの人々の思いについて考えていくようにする。</p>	<p>☆〈知理①〉</p> <p>アイヌの人々の自然を生かした文化とそれを引き継ぐ努力について理解している。</p>
	<p>④表にまとめる p. 59</p> <p>寒い気候を生かした北海道十勝地方の暮らしや産業について表にまとめましょう。(1/2時間)</p>	<p>○十勝地方の人々のくらしや産業の様子について、今まで調べてきたことをもとに、学習問題についてノートにまとめ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> くらしの様子、観光の様子、産業の様子、文化のの様子4つの観点で調べたことを整理すること。 学習問題に対する結論(小単元のまとめ)は、「自然条件」をキーワードにしてまとめること。 <p>十勝地方の人々は、冬の寒さや雪からくらしを守ったり、夏の涼しさや冬の寒さを生かした産業を工夫したりと、十勝地方の自然条件に合わせたくらしや産業の工夫をしている。④-2</p>	<p>◆ p. 59 の表は学習問題の結論(まとめ)を導く際、調べたことを整理するため活用する。</p> <p>◆ことば「自然条件」を使ってまとめ、寒い地域の人々の工夫について自分の考えを表現させる。</p>	<p>☆〈思判表②〉</p> <p>十勝地方の気候の特色と人々の生活や産業を相互に関連づけて、十勝地方の気候条件が生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、ノートに表現している。</p> <p>☆〈知理②〉</p> <p>十勝地方の人々の生活や産業の様子から、国土の自然条件が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。</p>

- 目標**
- 我が国の農業や水産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを理解し、国民生活を支える食料生産に関心をもっている。
 - 食料品の産地から学習問題をつくり、地図や統計などの資料を活用して調べてまとめるとともに、農産物や畜産物の分布や土地利用の特色と自然環境とを関連づけて考え、適切に表現する。

評価規準**○社会的事象への関心・意欲・態度**

- ①我が国の農産物や畜産物の分布や土地利用の特色に関心をもち、意欲的に調べている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①我が国の農産物や畜産物の主な産地について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ②農産物や畜産物の主な産地と自然環境とを関連づけて、主な産地と自然環境が深いかかわりをもって営まれていることを考え適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①地図や統計などの資料を活用して、我が国の農産物や畜産物の主な産地について必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことを白地図や作品にまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①我が国の主な農産物や畜産物の分布や土地利用の特色などを理解している。
- ②我が国の農業や水産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①産地調べ p. 64～65 わたしたちが食べている食料品の産地を調べて、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○集めた米袋や農産物など食料品のパンフレットを都道府県ごとに地図の上に貼り付けて、気づいたことや、考えたことを発表し合う。 ・わたしたちの県や、近くの県の食料品がたくさんある。 ・その地方の特産物と自然の様子には関係がありそうだ。 ・外国からの食料品もたくさん食べている。 ・遠くから新鮮なまま運ぶのは大変なのではないのか。 ・農産物などの主な産地は、わたしたちが集めた物と同じなのか。 ・わたしたちは、いろいろな場所で作られた食料品を毎日食べている。	◆実際に集めた食料品のパンフレットや米袋を地図の上に貼ることで関心を高め、気づいたことや考えたことを発表できるようにする。	☆<思判表①> 自分たちの食生活を支えている様々な食料の産地はどこか、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
	学習問題 わたしたちの食生活を支えている様々な食べ物の主な産地は、どこなのでしょう。			
調べる	②米づくり列島・日本 p. 66～67 米の主な産地はどこでしょうか。 (1時間)	○日本全国の6月の米づくりの様子がわかる写真や米の収穫量の資料から、米の産地について、気づいたことや考えたことを出し合う。 ・日本各地に水田があり、米づくりが行われている。 ・同じ6月でも、田植えをしたり稲刈りをしたりとやっていることがさまざま。 ・広い水田だけでなく、急な斜面にある棚田でも米づくりが行われている。 ・耕地の中で田の占める割合が4分の3以上の地域は日本全国に広がっている。 ・収穫量の多い東北地方や新潟県、北海道が米の主な産地といえる。	◆同じ6月の水田を写した写真を比べ、気候と作業の違いを関連づけたり、さまざまな地形の中で米づくりが行われたりしていることに気付くようにする。 ◆米の生産量の多都道府県上位5つを白地図に表し、作業的な活動を通して関心を高め、理解につながるようにする。	☆<関意態①> 日本の水田の分布や産地の様子に関心をもち、意欲的に調べている。 ☆<知理①> 米づくりは日本全国で行われているが、特に東北地方や新潟県、北海道が主要な産地であることを理解している。
		主食である米づくりは、日本の耕地面積の半分以上で行われ、全国各地で行われているが、主な産地は東北地方や北海道である。②		

	<p>③農産物の産地 p. 68～71</p> <p>そのほかの農産物の主な産地はどこでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○米以外の農産物や畜産物の主な産地と特色を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・涼しい気候に向けた野菜は、群馬県、長野県の高原や北海道などで生産されている。 ・冬でも暖かい気候を生かして野菜を生産している県がある。 ・大消費地に近い場所で、年間を通じて多くの種類の野菜が生産されている。 ・気候の影響を受けやすい果物は、栽培される地域が限られ、果物の種類によって主な産地が決まっている。 ・畜産は、牧草をつくる広い土地が必要なので、北海道や九州地方が主な産地になっている。 <p>野菜や果物などの農産物、畜産物を生産する農業は、自然環境と深いかかわりをもって営まれ、それぞれ主な産地が異なっている。③</p>	<p>◆写真や資料、教科書の本文を関連づけながら読み取らせ、農産物や畜産物と自然環境のかかわりについて気づけるようにする。</p>	<p>☆〈技能①〉 教科書の地図や統計などの資料を活用して、野菜や果物、畜産物の主な産地について必要な情報を集め、読み取っている。 ☆〈知理①〉 野菜や果物、畜産物を生産する農業は自然環境と深いかかわりを持ち、それぞれ主な産地が異なっていることを理解している。</p>
ま と め る	<p>④地図にまとめる p. 72～73</p> <p>わたしたちが毎日食べている食べ物を生産している主な産地はどんなところなのか、まとめましょう。 (1時間)</p>	<p>○これまで学習してきたことをもとに、毎日食べている食べ物を生産している主な産地についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米は、東北地方や新潟県、北海道などで生産がさかん。 ・野菜は、気候などの産地の特色を生かし、全国各地でつくられている。 ・果物は、気候の影響を受けやすいので、果物の種類によって主な産地が決まっている。 ・畜産は、牧草をつくる広い土地が必要なので、北海道や九州地方が主な産地になっている。 <p>我が国の農業は、自然環境と深いかかわりをもって営まれ、全国に分布する主な産地を中心に、主食である米をはじめ、野菜、果物、畜産物などを生産している。④</p>	<p>◆これまで学習してきたノートを活用して、農産物や畜産物の主な産地を自分の言葉でまとめられるようにする。</p>	<p>☆〈思判表②〉 農産物の主な産地と自然環境とを関連づけて、主な産地と自然環境が深いかかわりをもって営まれていることを考え適切に表現している。 ☆〈技能②〉 調べたことを白地図や作品にまとめている。</p>

- 目標**
- 我が国の米の生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていること、自然環境と深いかわりをもって営まれていることや、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解し、国民生活を支える米の生産の発展を考えようとしている。
 - 我が国の米の生産の様子から学習問題をつくり、地図、統計などの資料を活用して調べてまとめるとともに、米の生産と自然環境や国民生活とを関連づけて考え、適切に表現する。

評価規準**○社会的事象への関心・意欲・態度**

- ①我が国の米の生産の様子に関心を持ち、庄内平野を事例として意欲的に調べている。
- ②国民生活を支えている我が国の米の生産の発展を考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①我が国の米の生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ②米の生産と自然環境や国民の生活とを関連づけて、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考え適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①地図や統計などの資料を活用して、米の生産に従事している人の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことを白地図や「米づくり事典」などの作品にまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①我が国の米の生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、我が国の米の生産は自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解している。
- ②米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	① 庄内平野をたずねて p. 74～75 庄内平野はどのようなところなのでしょう。(1時間)	○写真や地図から、庄内平野がどのようなところなのかを読み取り、気付いたことや、わかったことを発表し合う。 ・庄内平野は、日本海に面した日本有数の米づくりのさかんな地域になっている。 ・平野や広く、ほとんどが水田になっている。 ・水田がきれいな長方形になっていて、平らな広い土地で米づくりが行われている。 ・水田の周りに見える山や川などの地形や気候などの自然条件も米づくりに大切なのではないか。 庄内平野は、広い平野を利用して米づくりを行っている日本有数の米の産地である。①	◆写真や地図から庄内平野の様子について気付いたことやわかったことを発表させ、米の生産の様子に関心がもてるようにする。	☆<関意態①> 我が国の米の生産の様子に関心を持ち、庄内平野を事例として意欲的に調べようとしている。
	② 米づくりのさかんな庄内平野 p. 76～77 庄内平野の米づくりに関する資料を見て話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。(1時間)	○鳥瞰図や統計資料を読み取り、わかったことや疑問に思ったことから学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・鳥瞰図からも庄内平野一体に水田が広がっていることがわかる。 ・庄内平野は日本の中でも水田のわりあいが高く、米づくりがさかんな地域といえる。 ・ほ場整備が進んでいるのは、地域で協力して米づくりを進めているからではないか。 学習問題 庄内平野で米づくりをしている人々は、どのようにしてよりよい米を生産し、消費者にとどけているのでしょうか。	◆鳥瞰図や統計資料から、庄内平野が我が国を代表する米の産地であることに気付かせ、学習問題につなげる。 ◆予想や学習計画の立て方を活用し、実践的に学べるようにする。	☆<思判表①> 鳥瞰図や統計資料から読み取ったことをもとに、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
調べる	③ 地形と気候を生かす p. 78～79 庄内平野は、どうして米づくりに適しているのでしょうか。(1時間)	○庄内平野で米づくりがさかんなわけを、写真や地図、資料などをもとに調べて、米づくりと自然環境とのかかわりについて話し合う。 ・川が運んでくる土と雪解け水が庄内平野の米づくりを支えている。 ・夏にふく季節風が丈夫な苗を育てることに役立っている。 ・土地利用図からも平野のほとんどが田として使われていることがわかる。 ・酒田市は降水量が多く、夏の日照時間が長い。 ・庄内平野の自然環境は米づくりに適している。 稲作のさかんな庄内平野は、平らな広い水田、降水量、季節風、夏の日照時間、昼夜の温度差が大きい場所など、米づくりに適した自然環境がそろっている。③	◆写真や地図、資料と教科書の本文を関連づけながら読み取らせ、米づくりと自然環境のかかわりについて気付けるようにする。 ◆防砂林や整備された耕地の様子から、米づくりに適した自然環境にするための人々の努力にも目が向くようにする。	☆<技能①> 地図や統計などの各種の資料を活用して、米づくりに適した自然条件や人々の努力について必要な情報を集め、読み取っている。 ☆<知理①> 庄内平野の米づくりは自然環境と深いかかわりがある。

<p>④岡部さんの 200日 p. 80~81</p> <p>岡部さんの米づくりにはどのようなふうや努力があるのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○専業農家である岡部さんの話や資料、インターネットを活用し、米づくりの仕事について調べ、農作業暦にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくりは2年前の種もみ選びから始まっている。 ・3月から10月まで、稲の育ち具合に合わせた作業をし、大切に育てている。 ・作業ごとにいろいろな機械を使って、効率的に仕事をしている。 <p>稲作農家の人々は、種まきから収穫まで稲の生長に合わせて工夫や努力を重ねている。 ④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆稲の生育にかかわる工夫と機械化などの効率化にかかわる工夫があることに気付くようにする。 ◆「まなび方コーナー」を活用し、調べたことや考えたことなどを農作業暦にまとめ、米づくり農家の工夫や努力に目が向くようにする。 	<p>☆<技能①> 農家に手紙を出したり、インターネットや教科書の資料などを活用して、農家の工夫や努力について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>☆<知理②> 米をつくる農家では、生産を高めるために工夫して稲を育てたり、作業の効率化を行うなどの工夫や努力をしていることを理解している。</p>
<p>⑤米づくりと地域の協力 p. 82~83</p> <p>農家の人々は、よりよい米づくりのために、どのように協力しているのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○庄内平野の農家の人たちが、よりよい米づくりのためにどのように協力し合っているかを調べ、協力し合うわけについて考えて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のすべての田にむだなく農薬をまくために、小型のヘリコプターを地域の人たちでお金を出し合い、使っている。 ・高い農業機械も地域の人たちが共同で持ち、効率よく米づくりを進めている。 ・肥料をまく時期や水の管理についても、みんなで話し合い、共同作業をしている。 <p>庄内平野の人々は機械化や共同化など地域で協力し、生産の効率を高めている。 ⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆高額な機械や特殊技能を要する機械、水の管理など、農家同士の協力が不可欠であることに気付くようにする。 ◆技術の継承や向上という視点にも目が向くようにする。 	<p>☆<技能①> 地図や統計などの資料を活用して、庄内地方の農家同士が協力して生産を高める工夫をしていることについて必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>☆<知理②> 庄内地方の農家が、作業の効率化や技術の継承・向上のために、様々な作業や機械、設備の利用、生産技術の研究などの面で協力し合っていることを理解している。</p>
<p>⑥庄内地方の農家を支える人たち p. 84~85</p> <p>農家の人たちを、だれがどのように支えているのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○農業協同組合（JA）や水田農業試験場などが、どのように米づくり農家の人たちを支えているかを調べて、わかったことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAから高額な農業機械を買うときにお金を借りたり、機械や肥料を買ったりできるので、米づくりが進めやすい。 ・JAの営農指導員は、米づくりで困ったときに相談にのってくれたり、注意事項などをアドバイスしたりしてくれる。 ・水田農業試験場では、品種改良や有機農業の研究をし、生産者や消費者のニーズに合った米を開発している。 ・土地や気候に合わせて、おいしく育てやすい米づくりができるための取り組みが昔から続いている。 <p>JAや水田農業試験場など、地域には米づくりを支える様々な仕組みがある。 ⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆農業協同組合や水田農業試験場の仕事を調べ、米づくり農家をどのように支えているか考えるようにする。 ◆米づくりの発展への取り組みが昔から続いていることにも気付くようにする。 	<p>☆<技能①> 地図や統計などの資料を活用して、庄内平野の米づくりを支える農業協同組合や農業試験場の役割について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>☆<知理②> 庄内平野の米づくりは、農業協同組合や水田農業試験場など、様々な仕組みによって支えられていることを理解している。</p>

<p>⑦おいしい米を全国に p. 86~87</p> <p>庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○庄内平野の米が消費者にとどけられるまでの様子を調べて、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きや、米づくりにかかわる費用や価格について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カントリーエレベーターで味を保った状態で保管された米は、全国各地へ出荷されている。 ・庄内平野は、日本の主食を生産する大切な食料基地の一つになっている。 ・トラックや列車、フェリーなどの運輸の働きによって、全国に米がとどけられている。 ・米の値段には、生産のほかに、輸送や販売などの費用が含まれている。 <p>カントリーエレベーターや運輸の働きにより、味を保ちながら米を早く全国の消費地へ届けることができる。⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆カントリーエレベーター内での米の流れを確認し、味を保ちながら保管する役割を果たしていることに気付けるようにする。 ◆庄内平野の米の送り先と日本の交通網を関連づけて読み取らせ、運輸の働きが重要であることに気付けるようにする。 	<p>☆〈技能①〉 地図や統計などの資料を活用して、味を保ちながら早く全国に届けるための工夫について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>☆〈知理②〉 運輸の働きによって米が消費地まで届けられることや、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きが国民生活を支えていることを理解している。</p>
<p>③農家のかかえる問題とこれからの米づくり p. 88~89</p> <p>農家の人たちはどのような問題をかかえているのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○農家のかかえる問題について資料から読み取り、これからの米づくりについて自分が考えたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産調整をして、消費量に合わせて米の生産量を減らしている。 ・農家をやめる人が増え、農家の数は減ってきている。 ・農業をつぐ若い人が少なく、高齢化が進んでいる。 ・米の消費量を増やすために、新たな食べ方や活用方法を考えている人たちがいる。新しい提案を今後もしていくと、消費量が増えていくのではないかな。 ・高校生が農業を学ぶ機会をもち、農業を行う若い人を増やす取り組みがある。若い人に米づくりの大切さを伝えていく必要がある。 ・農業体験ツアーは、環境の学習にもなる。 ・生産者と消費者の交流をして、米づくりの大切さを理解する。 <p>稲作農家では米の消費量の減少や後継者不足などの問題を抱えているが、問題の解決に取り組んでいる。③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆資料から読み取ったことと本文を関連づけ、消費量の減少が日本の稲作のかかえる様々な問題を引き起こしていることに気付けるようにする。 ◆実際に行われている問題を解決するための取り組みを参考にし、米づくりの提案を考えられるようにする。 	<p>☆〈思判表②〉 米づくりの抱える様々な問題から、今後の発展のために消費量を増やすことが有効なことや、そのためにどのような取り組みができるか考え適切に表現している。</p> <p>☆〈関意態②〉 実際に行われている取り組みや他の児童の意見を参考にし、これからの米づくりの発展について考えようとしている。</p>

まとめる	<p>⑨「米づくり事典」をつくる p. 90～91</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 米づくりがさかなな庄内平野の人たちのくふうや努力について考え、まとめましょう。 (1時間) </div>	<p>○これまでの学習をもとに、米づくりがさかなな庄内平野の人たちの工夫や努力について考え、「米づくり事典」にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化による効率化 ・自然環境を生かして ・地域の共同作業 ・農家を支える人たちとともに ・おいしく育てやすくするための品種改良 ・食料基地としての庄内平野 ・専業農家と兼業農家 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 我が国の食料生産の中心である稲作の主要な産地である庄内平野では、自然条件に合わせ、米づくりに携わる人々が様々な工夫や努力をしている。⑨ </div>	<p>◆「ことば」を活用して表現させることによって、これまで学習したことを生かせるようにする。</p>	<p>☆〈知理①〉 これまでの学習をもとに、庄内平野の米づくりは自然条件と深いかわりがあること、また人々が生産を高めるために様々な努力や工夫をしていることを理解している。</p> <p>☆〈技能②〉 これまでの学習を生かし、写真やグラフなどの資料を活用し庄内平野の米づくりの工夫や努力について「米づくり事典」にまとめている。</p>
------	--	---	---	--

- 目標**
- 我が国の水産業に関心を持ち、水産業が自然環境を生かして営まれ国民の食生活を支えていることや、水産物には外国から輸入しているものがあること、主な漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きを理解するとともに、国民生活を支える水産業の発展について考えようとする。
 - 我が国の水産業の様子から学習問題を見だし、地図や地球儀、統計などの資料を活用するなどして調べたことをノートや漁業別地図にまとめるとともに、水産業の様子と自然環境や国民生活とを関連づけて思考・判断したことを適切に表現する。

評価規準**○社会的事象への関心・意欲・態度**

- ①我が国の水産業の様子に関心を持ち、水産業が盛んな地域の生産活動について意欲的に調べている。
- ②国民の食生活を支える水産業の発展について考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①我が国の水産業の様子について水産業が盛んな代表的な地域の事例を調べるための、学習問題や予想・学習の計画を考え表現している。
- ②水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①水産業が盛んな地域を事例として、我が国の水産業の様子について、地図や、統計などの各種資料を活用して読み取っている。
- ②水産業が盛んな地域の生産活動の様子や水産業に従事している人々の工夫や努力について調べたことを、ノートや漁業別地図にまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①水産業に携わる人々が、自然環境を生かすなど様々な工夫や努力をして生産したり、新鮮さを保ちながら輸送したりして国民の食生活を支えていることを理解している。
- ②我が国は世界有数の水産国でありながら、漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱え、養殖業や栽培漁業、水産物の輸入が増えてきたことを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
つかむ	<p>①水産国・日本 p. 92～93</p> <p>水産業がさかんな地域について考え、学習問題をつくりましょう。(1時間)</p>	<p>○日本の水産業の様子について、地図や統計資料を読み取る活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理し学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の周りの海では、いろいろな魚介類がとれる。 一人あたりでは、中国、アメリカ、ロシアの2倍から3倍近くの魚介類を消費している。 たくさん消費される魚介類はどのようにしてとられているのだろうか。足りているのだろうか。 たくさん魚介類が水あげされているところは、水産業がさかんな地域だ。 	<p>◆日本の近海は海流が流れ、大陸棚が広がっていることで、良い漁場に恵まれている事を地図の読み取りと教科書の文章からつかませる。</p> <p>◆地図、グラフから水産業がさかんな地域を調べさせ、写真からその様子をイメージさせる。</p>	<p>☆＜思判表①＞</p> <p>我が国の水産業の様子について水産業が盛んな代表的な地域の事例を調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p>
	<p>学習問題 水産業がさかんな地域では、どのようにふうをして、わたしたちの食生活を支えているのでしょうか。</p>			
調べる	<p>②沖合漁業のさかんな長崎漁港 p. 94～95</p> <p>沖合漁業は、どのように行われているのでしょうか。(1時間)</p>	<p>○写真やイラストから、まきあみ漁についてわかったことをノートにまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2隻の船が協力して魚をとっている。 照明をつけているから、夜に漁をしているのかな。 働いている人は、水にぬれないように合羽を着て、ゴムの靴をはいている。 この2隻の船のほかにも役割をもった船が一緒に働いているのかな。 <p>○漁港の人の話とまきあみ漁の写真から、まきあみ漁の様子や漁の工夫についてわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚群探知機で魚を探す。なかなか見つからない日もあるだろう。 天気が悪いと漁に出るのは危険だ。 とれる魚の量は、天候や魚の群れのいる場所など自然環境に影響される。 <p>沖合漁業がさかんな長崎漁港の近海では、魚群探知機で魚の群れを探し、船団を組んだまき網漁を行っている。②</p>	<p>◆p. 92 の地図で長崎漁港の周りの自然環境・長崎漁港の水あげ量が多いこと、グラフから長崎県の漁業生産額が高いことを読み取らせ、水産業の盛んな地域であることを確認する。また、地図帳や統計資料も活用できるようにする。</p> <p>◆p. 94 の写真から漁の様子をつかませる。装備、人の動き、周りの様子などに目を向けさせる。</p>	<p>☆＜関意態①＞</p> <p>長崎漁港の漁業の特長に関心をもち、沖合漁業で行われるまき網における工夫や努力について意欲的に調べている。</p>

<p>③長崎漁港から食卓へ p. 96~97</p> <p>長崎漁港に水あげされた魚は、どのようにして食卓へとどくのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○長崎漁港にはどんな施設があるか、空中写真とイラスト図からわかったことをノートに書き発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚市場、船から魚を陸にあげる設備、駐車場、船の給油や修理をする施設、加工工場、冷凍施設 ・漁港は、水産業にとって基地の働きをしている。 <p>○写真を見て、水揚げされた魚が食卓にとどくまでの流れについてわかったことを、時間の流れに沿ってノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前3時ごろ・・・とった魚が長崎漁港に水あげされる。魚は、種類や大きさごとに自動選別機や人の手によって新鮮なうちに分けられ、箱詰めにされる。 ・午前5時ごろ・・・魚市場でせりかけられ、値段と買う人が決められる。せりおとした魚を売りたい人に売る。 ・午前6時ごろ・・・せりおとされた魚は県内の店だけでなく、トラックに積み込まれ東京や大阪、福岡などに運ばれ売られる。魚は、他県の魚市場でもう一度せりかけられたり、店やスーパーで売られたりする。 <p>○魚が運ばれる道を道路地図で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎から、高速道路で大きな都市に運ぶことができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>長崎漁港に水あげされた魚は、種類や大きさごとに分けられせりかけられた後、トラックなどで新鮮なうちに加工工場や日本各地に運ばれる。③</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆空撮写真から広さや周りの環境を読み取らせる。イラストや写真から読み取れない施設については、教師が示してつかませる。 ◆写真からわかることをノートにまとめさせる際、教師がより詳しい情報を与え、新鮮なおいしいうちにとどけるための様々な工夫に気づかせる。 ◆せりについて、仲買人についてなど専門的で分かりにくいことは、教師が説明する。 ◆魚の値段には、生産から販売までの様々な費用が含まれていることに必ず触れる。図解するとわかりやすい。 	<p>☆<知理①></p> <p>漁港には様々な機能があり、新鮮なうちに消費地へ届けるための様々な輸送の工夫がなされていることを理解している。</p>
--	---	---	---

④ 遠洋漁業のさかんな焼津港
p. 98~99

遠洋漁業は、どのように行われているのでしょうか。(1時間)

- 写真から、一本釣り漁法についてわかったことをノートにまとめ、発表する。
 - ・一人ずつ大きな釣竿でつっている。
 - ・かつおの重さで釣竿がしなっている。
- ・まき網漁法で魚をとっていたのは夜だったけれど、こちらは昼間でカップも着いていない。
- ・一本釣りの針は大きくて飾りがついている。餌に見えるように工夫されている。
- ・重そうな釣竿で、大きなかつおを釣り上げるのは大変そうだ。
- ・雨が降ったり、船が揺れていたりしたらできないだろう。
- 漁師さんの話から、漁の工夫や、新鮮さを保つ工夫について、わかったことをノートにまとめる。
- ・船の上でふんばって釣竿で一匹ずつ釣り上げる。
- ・かつおが食いつきやすく、にげにくい特別な針で釣っている。
- ・とったかつおはすぐに冷凍し新鮮さを保つことができるので、さしみに向いている。
- ・魚群探知機で群れを探す。何日も群れに出会わないこともある。
- かつおが回遊する範囲の地図から、焼津からどのくらい遠くまで漁に出かけているか調べ発表する。
- ・かつおは季節によって移動している。
- ・かつおの動きに合わせて、漁船も移動するのだろう。
- ・赤道のほうまで移動している。

遠洋漁業のさかんな焼津漁港では、かつおの水あげ量が多く、かつおの回遊とともに漁船は移動し、一本釣りやまき網漁で漁を行う。④

- ◆長崎漁港と同じように、焼津漁港のある静岡県が漁業の盛んな地域であることをp.92の資料で確認する。
- ◆まき網漁法でわかったことをもとに見ていくようにする。
- ◆一匹ずつ取ることのよさ、大変さの両方に気づくようにする。
- ◆まき網漁船も魚群探知機を使って魚を探していたことから、自然環境に左右されるのは遠洋漁業も同じであることに気づかせる。
- ◆かつおの回遊の範囲から遠洋漁業の範囲をつかませ、漁をしている期間の長さを実感させるようにする。

☆<技能①>

資料を活用して、焼津漁港の水産業の特長やかつお漁の漁法の違いやよさ、工夫していることを読み取りノートにまとめている。

<p>⑤ かつおの水あげがさかんな焼津港 p. 100～101</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かつおが多く水あげされる焼津漁港は、どのようなどころでしょうか。 (1 時間)</p> </div>	<p>○地図帳で焼津漁港の位置を調べ、立地条件のよさについてわかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津港は、本州の中ほどに位置し、大きな都市と高速道路でつながっている。 ・大消費地東京・名古屋・大阪に近い。 <p>○かつおの水あげの写真、冷凍庫の写真、水産加工団地の人の話から、水あげされたかつおを運ぶための工夫についてわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなかつおが冷凍のまま水あげされている。冷凍だから、このままおいておくと冷凍が溶けてしまう。 ・冷凍保存できる倉庫に入れておけるから、運ぶまでそこに入れておくことができる。 ・焼津市にはかつお節などの工場がたくさんあるからそこでもかつおが使われる。 ・冷凍施設などを共同で使えるようにしているから、たくさんの工場がありたくさんの人が働いている。 <p>○地図とグラフから、日本の漁業の様子について読み取りわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の海ではそれぞれの国が魚をとってよい範囲が決められている。 ・日本の遠洋漁業・沖合漁業の生産量はどんどん減ってきている。 ・魚を世界一食べているのに、とる量が減ってしまい、魚が食べられなくなるのかな。 ・水産物の輸入が生産量の減少と合わせるように増えてきた。 ・わたしたちがこれからも同じように魚を食べられるようにするためには、どうすればよいのだろう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>焼津漁港には、かつおを冷凍保存できる大きな倉庫があり、新鮮なまま消費地に運べ、また市内には多くの加工工場がある。 ⑤</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆焼津漁港の空中写真から、長崎漁港と同じような施設があるだろうと予想させる。 ◆大量の冷凍かつおが水あげされるが、それを新鮮なまま全部を運ぶことができるのだろうかという疑問がもてるとよい。 ◆漁業別の生産量の変化と水産物輸入量の変化のグラフを比較して考えさせる。 ◆漁業別生産量の変化のグラフから、まだ学習していない、養殖業と沿岸漁業の変化に注目させ、次の学習への興味を持たせる。 	<p>☆＜知理②＞</p> <p>我が国は世界有数の水産国でありながら、漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱え、養殖業や栽培漁業、水産物の輸入が増えてきたことを理解している。</p>
---	--	---	---

<p>⑥ つくり育てる漁業 p. 102~103</p> <p>つくり育てる漁業には、どのようなくふうや努力があるのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○写真と養殖をする人の話から、ほたて貝の養しょくの様子、工夫や努力についてわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3センチぐらいまであみに入れて育てた後、かごの中で育てる。 ・出荷できる15センチぐらいになるまでかごで育てる。 ・時期ごとにいろいろな作業があるが手作業である。 ・全部で100万枚ぐらい手作業で育てる。 ・大変だが成長を見るのは楽しみ。 ・収入は安定している。 <p>○養しょくによるほたて貝の生産量は増えてきている。</p> <p>○イラストと栽培漁業センターの人の話から、ひらめのさいばい漁業の様子、工夫や努力についてわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりすぎて減ってしまったため、ひらめのさいばい漁業を始めた。 ・センターでたまごから5センチ以上の大きさに育てて、県内各地の海に放流する。200万匹の放流を目標にしている。 ・センターでは、稚魚が健康に育つように与えるえさも工夫している。 ・放流されたひらめも、全長35センチ未満はとらないようにし、資源管理をしている。 <p>つくり育てる漁業は、生産量が安定するよう計画的に行われ、自然に近いように育てたり、健康に育つようにえさを工夫したりしている。</p> <p style="text-align: right;">⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆長崎漁港、焼津漁港と同じように陸奥湾に面した地域が水産業の盛んな地域であることを、p. 92の地図で確認する。 ◆本物のほたて貝のからを用意し、大きさを理解させるとともに、写真に釣り上げられているほたて貝の量や、1回の出荷量など作業量の目安になる数値を示すようにする。 ◆5センチの稚魚の大きさと35センチのおとなの大きさが実感できるように、絵などで示すとよい。 	<p>☆＜思判表②＞</p> <p>つくり育てる漁業は生産量が安定するよう計画的に行われ、また資源管理などの様々な工夫や努力が行われていることを考え、ノートにまとめている。</p>
<p>⑦ 漁港別に地図にまとめる p. 104~105</p> <p>水産業がさかんな地域の人たちのくふうや努力について調べたことを、まとめましょう。 (1時間)</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">まとめる</p>	<p>○水産業が盛んな地域の様子についてわかったことや、考えたことを話し合う。</p> <p>○今まで学習したこと、考えたことを漁業別の地図にまとめる。</p> <p>○日本の水産業について、考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界一魚介類を食べる、日本人であるわたしたちにとって、水産業は食料を確保するなくてはならない産業である。 ・水産業で働く人たちは、新鮮でおいしい魚を食卓にとどけるために、様々な工夫をしている。 ・遠洋漁業・沖合漁業がどんどん減ってきている。これからますます水産物の輸入が増えるだろう。しかし、輸入に頼るだけになってしまえば水産業の発展はなくなってしまう。 ・収入が安定し、計画的に生産できる養殖業やさいばい漁業をのばしていくことが、輸入だけに頼らずにすむ方法ではないか。 <p>水産業がさかんな地域の人たちは、自然環境に左右される漁や生産活動が安定して行えるよう工夫や努力をし、国民の食生活を支えている。 ⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習問題のまとめとしての話し合いになるようにする。 ◆日本地図とイラストをつけたワークシートを用意しまとめさせるとよい。 	<p>☆＜関意態②＞</p> <p>水産業にかかわる人々の様々な努力や工夫によって、国民の食生活が支えられていることを理解し、その発展を考えようとしている。</p> <p>☆＜技能②＞</p> <p>水産業が盛んな地域の生産活動の様子や水産業に従事している人々の工夫や努力について調べたことを、ノートや漁業別地図にまとめている。</p>

- 目標**
- 我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解し、これからの食料生産のあり方について考えようとしている。
 - 我が国の食料生産の現状から学習問題をつくり、統計などの資料を活用して我が国の食料生産をめぐる問題について調べてまとめるとともに、これからの食料生産について何ができるか自分の考えをもって話し合いに参加し、これまで学習したことと関連づけて考え、適切に表現する。

評価規準**○社会的事象への関心・意欲・態度**

- ①我が国の食料生産の現状と未来について関心をもち、意欲的に調べている。
- ②自分の生活と食料生産とのかかわりから、これからの我が国の食料生産について考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①我が国の食料生産をめぐる問題について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ②食料自給率の低下や食の安全・安心、生産者と消費者などの観点をもとに、思考・判断したことを適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の食料生産の問題点について必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことを図や文章にまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。
- ②我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解している。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	<p>①日本の食料生産をめぐる問題点 p. 112～113</p> <p>食料生産の問題について話し合い、学習問題をつくりましょう。(1時間)</p>	<p>○スーパーマーケットの売り場の写真や資料を見て、気づいたことや、考えたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本産だけでなく、外国産の商品も多く売られている。 ・同じ野菜でも日本産と国産では価格に大きな違いが見られる。 ・日本の食料自給率は他の国と比べて低く、また40年前と比べても下がっている。 ・小麦や大豆をはじめ、自給率の低い食べ物が多く、輸入でまかなっている。このままで問題はないのだろうか。 ・食の安全性の問題がニュースで流れていたことがある。安心して食べられるかについての問題も抱えていると思う。 	<p>◆スーパーマーケットの写真から読み取れることと資料を関連づけて考えさせ、食料自給率の低下の問題に気づけるようにする。</p> <p>◆食の安全に関する新聞記事を用い、食の安全・安心の問題にも目が向くようにする。</p>	<p>☆<知理①> 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。</p> <p>☆<思判表①> 我が国の食料生産をめぐる問題について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p>
	<p>学習問題 食料生産にはどんな問題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいでしょうか。</p>			
調べる	<p>②わたしたちの食生活の変化と食料生産 p. 114～115</p> <p>日本の食料生産には、どのような問題があるのでしょうか。(1時間)</p>	<p>○40年の間に食生活がどのように変化し、どんな問題があるのか調べ、問題を解決するための取り組みについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和食ではなく、洋食を食べることが多くなってきている。 ・外国から輸入される食料品の種類や量が増え、様々な食料品がいつでも手に入るようになってきている。 ・輸入が増えたことにより、国内の生産者が減り、耕地面積が減ってしまう問題が起きている。 ・輸入先での災害などにより、日本に食料品が入ってこなくなる可能性もある。今の食料生産を見直す必要がある。 ・地産地消の取り組みなど、自分たちでも自給率を上げることができるのではないか。 	<p>◆食生活の変化によって輸入が欠かせなくなった結果、農業や漁業の就業人口や耕地面積の減少につながったことに気付けるようにする。</p> <p>◆T P Pについては、現状を把握し、指導していきたい。</p>	<p>☆<技能①> 地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の食料生産の問題点について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>☆<知理②> 我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解している。</p>
	<p>食生活の変化や就業人口の減少、農業生産や漁業生産の減少が食料自給率の低下につながっている。②</p>			

	<p>③食の安全・安心への取り組み p. 116~117</p> <p>食の安全・安心に対する取り組みは、どのように行われているのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○食の安全・安心に向けて行われている取り組みや環境との関連について調べ、食の安全・安心に向けた行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地や農家の方の写真を表示されると安心して買うことができる。 ・トレーサビリティのしくみがあると、生産者が責任をもって出荷しているので、消費者も安心して買うことができる。 ・自分たちが食に関心をもつことで、安全・安心な食品を選ぶことができる。 ・安全・安心な農産物や水産物を育てるには、環境をよくしていく必要がある。自分たちの生活にとっても環境保全は大切だ。 <p>食の安全・安心に向けた取り組みが行われている。安全・安心な食料の確保のためには、食に関心をもつことや食料を生産するための環境についても考えていく必要がある。③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆トレーサビリティの実例を見せることにより、食の安全・安心につながっていることを実感できるようにしたい。 ◆環境に目を向けることで、農業や漁業が自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを改めて考えられるようにする。 	<p>☆〈技能①〉 地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の食料生産の問題点について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>☆〈知理②〉 我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解している。</p>
<p>まとめる</p>	<p>④これからの食料生産について考える p. 118</p> <p>これからの食料生産について調べたことをふり返り、まとめましょう。 (1/2時間)</p>	<p>○これまで学習してきたことをもとに、これからの食料生産について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自給率が低下した要因 ・自給率が低いことの問題点 ・輸入にたよる現状の問題点とその対策 ・安全・安心に対する取り組みとその活用 ・食料生産と環境保全のつながり <p>我が国の食料生産を発展させるためには、様々な課題の解決が必要であり、わたしたち国民の努力が大切である。 ④-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ことば」を活用して表現させることによって、これまで学習したことを生かせるようにする。 	<p>☆〈関意態②〉 自分の生活と食料生産とのかかわりから、我が国の食料生産の発展を考えようとしている。</p> <p>☆〈思判表②〉 食料自給率の低下や食の安全・安心、生産者と消費者などの観点をもとに、思考・判断したことを適切に表現している。</p>
<p>いかす</p>	<p>④テレビ番組をつくろう p. 119</p> <p>食料生産の未来のために、わたしたちは何ができるでしょうか。 (1/2時間)</p>	<p>○これからの食料生産について話し合ったことをもとに、食料生産の未来のために自分たちができることについてテレビ番組をつくるつもりで絵コンテにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率 ・食の安全・安心 ・食料生産に携わる人の問題 ・自然環境とのつながり <p>食料生産は、わたしたちの生活を支える重要な役割を果たしている。これからも食料生産を発展させていくためには、自分たちも社会を支える一員として主体的に考えていくことが大切である。 ④-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆「まとめる」で話し合ったことをもとに、我が国の食料生産の発展について考えたことを表現させる。 	<p>☆〈技能②〉 食料生産の未来のために自分ができることについて、絵コンテにまとめている。</p>